

第7次総合計画策定に向けた  
地区別ワークショップ（本町地区）要旨

- 
- 【日時】 平成27年10月14日（水）18:30～20:45  
【場所】 小館稲荷神社  
【ワークショップ 参加者】 20名  
【ファシリテーター（進行役）】 (株)日本経済研究所 2名  
【事務局等】 市職員4名  
【配付資料】

- ・資料1 地区別ワークショップ（本町地区）次第
  - ・資料2 地区別ワークショップ資料 会津若松市 全体資料
  - ・資料3 地区別ワークショップ資料（若松地区WS） 鶴ヶ城・中心市街地周辺地域
- 

テーマ：「商店街と医療・福祉がつながるまちづくり」

【議事】

1. 開会（企画調整課）

2. 配布資料説明

（1）新総合計画について（企画調整課）

- ・地区別ワークショップでは、地区ごとにテーマを設定し、話し合いをする。地域の方から出されたアイデアを新総合計画に盛り込みたいと考えている。中心市街地周辺地区のテーマとして、活性化に向けて様々な取組を行っている本町商店街の皆さんと本町周辺の竹田総合病院をはじめとした医療、介護、福祉事業所の皆さんとの横の連携を考えていく、今回のテーマを設定した。

（2）会津若松市・地区別の概況について（進行役）

⇒全体説明後、3グループに分かれて作業をした。Aグループに日本経済研究所職員、Bグループ、Cグループに市職員が参加し、進行支援を実施した。

3. 取組紹介（竹田健康財団）

竹田病院には、従業員が約2,000人おり、日中は約1,200人が院内で働いている。外来患者は約1,300人/日で、付添を含めると約2,600人/日が来院する。この他、出入りの業者が約5～600人/日で、計4,000人以上が毎日来院している。この来院者数を本町商店街の活性化に活かせるのではないかとのこと。

4. ワークショップ（進行役）

- （3）第1部「本町商店街と竹田病院や福祉関係施設との連携」の視点から、本町地区の課題抽出

- ・自己紹介
- ・「本町商店街と竹田病院や福祉関係施設との連携」の視点から、課題をポストイット（付箋）に記入（作業）
- ・記入した内容を各自グループ内で発表
- ・グルーピング（分類）してキーワードを設定

i) Aグループ

情報発信／病院関係者の利用者ニーズ調査／道路の整備／駐車場不足／コミュニティスペースの不足／空き店舗／雰囲気づくり／雪対策／イベントのにぎわい不足／時間つぶしができる店がない／休日に閉まる店が多い

ii) Bグループ

高齢化／駐車場が少ない／情報不足／空き店舗／集える場がない／食事をする場所や200～300円程度で休める場所がない／病院との距離がある

iii) Cグループ

人材不足（担い手、若者）／空き店舗／集まれる場所がない／集客力のあるイベントがない／PRが下手／病院との距離が遠い／使いやすい駐車場がない／歩道が歩きにくい、危険／まちのことを知らない人が多い

(4) 第2部 キーワード（課題）に対する取組の検討

- ・書記決定
- ・キーワード（課題）を踏まえて、具体的にどのような取り組みを行えば課題が解決するか、話し合いを行う。
- ・取り組みについて、「①具体的な方策」と「②実施主体」の2つについて話し合い、話し合った結果を書記がポストイット（付箋）に記入し、模造紙に貼付
- ・発表者決定
- ・各グループの成果として、①の内容について全体発表した。②については、各グループとも時間が不足し、十分な検討に至らなかった。

i) Aグループ

方策：

「情報発信やPR」 ⇒本町だよりの作成やFacebookを使ったPR、商店街の人が交代でFMラジオ放送を実施する。

「利用者（病院関係者）のニーズを調査する」 ⇒病院開催予定の日曜日での出店調査を行う

「安全な道の整備」 ⇒道路管理者に依頼したい

「駐車場の利用」 ⇒駐車場スペースはあるもののわかりにくいいため、駐車場マップやサインボードを作る／駐車場の共有を行うため、各商店

- にアンケートを行い、貸し出す仕組みを検討
- 「コミュニティスペース」 ⇒トイレマップを作成する／市民が集まれる場所を作る／各商店に協力してもらい、トイレについても貸出システムを検討する
- 「空き店舗の活用」 ⇒空き店舗活用に関する啓蒙活動を行う
- 「雰囲気作り」 ⇒フラッグを用いて一体感を醸成する／かえるグッズやかえるの町としての雰囲気作りを行う
- 「雪対策」 ⇒各店がマナーを守ることに努める
- 「イベントのにぎわい不足」 ⇒イベントは竹田病院と協働することで賑わい不足を解消する
- 「休日に閉まる店が多い」 ⇒病院や福祉施設間の情報共有を行う／市への要望として、行政サービスを本町で受けられるようにする

## ii) Bグループ

方策：

- 「魅力ある町づくり」 ⇒高齢者が多いため、高齢者を活かして子育て相談室等を行う／駐車場のシェア／まちのかわら版／実験をたくさんする／高齢者が元気になるイベント／惣菜横丁をつくる／商店街の清掃を行う／空き店舗への誘致
- 「集う休む場所」 ⇒ワンコインでランチを食べて、コーヒーは200～300円で休めるところを作る／集える場所に囲碁や将棋があることで年配の人が集まれる場所を作る／各商店からポケットパークなどに出前をできるようにする／法律や人生の相談ができる場を作る／併せて、そういう場所にはトイレを整備する
- 「病院とのコラボ」 ⇒健康面重視の町になる／ウェルネスタウンや健康をテーマにしたまちのイメージ作戦を立てる／まちの保健所として機能してもらい／病院と商店のアクセス改善（東邦銀行横など）／コープと竹田病院のコラボレーションを行う／体力づくりのコアを更にPRする／本町から諏訪神社に至る小道の整備

## ii) Cグループ

方策：

- 「人材不足の解消」 ⇒ボランティアの活用
- 「空き店舗の活用」 ⇒統一された外観づくり、福祉ニーズにこたえて空き店舗を減らす／小さなイベントでも成功例を積み上げることで空き店舗の活用につなげる→成功例を情報共有
- 「集まれる場所やイベントを整備し、商店のPRを行う」  
⇒計画的なイベントの企画・実施、目立つオブジェでPR／人の集

まるところに情報を届ける（駅・市役所・SNS）／病院と極楽寺や長命寺とのコラボを行う／歴史・パワースポットの企画→事業所の広報誌で「本町」の宣伝を載せる、歴史を地域で見直す「使いやすい駐車場」⇒利用可能な物件の活用（旧パチンコ店）のため、持ち主の協力を仰ぐ

① 全体講評（進行役）

- ・設定テーマは難しかったと思うが、まずは、まちづくり・商店街活性化に取り組んだ上で、病院との連携を検討するという点がどのグループにも共通していた。
- ・ハードに関して、取り組まなければならないこともあるが、ソフトで出来ることもたくさんあることがわかったと思う。例えば、駐車場が少ないという声がある一方で、現在ある駐車場をシェアするという仕組みづくりで対応することも考えられる。こうした仕組みを作るに当たっては、商店街内の連携が必要である。商店街内の連携は難しいことではあるが、連携がないとソフト面での対策を立てることは難しい。
- ・何かに取組む際には、担い手が商店街の方だけでは負担が大きいため、できる人を巻き込んでいくことで商店街活性化に向けた取組みが行われるべきである。担い手を増やし、そこが連携していくことがポイントとなる。

5. 事務連絡（企画調整課）

6. 閉会（企画調整課）



Cグループ 課題、取組体制、方策

